

平成 14 年度事業報告

会長・理事 羽 鳥 光 俊

前代会長・理事	内藤喜之	理事	吉田進	理事	小林功郎
副会長・理事	齊藤忠夫	理事	並木淳治	理事	小川英光
副会長・理事	小山正樹	理事	河内正夫	理事	仙石正和
副会長・理事	富永英義	理事	雨宮真人	理事	酒井善則
副会長・理事	稲垣康善	理事	木戸出正継	理事	井筒雅之
理事	青山友紀	理事	篠田庄司	理事	上林弥彦
理事	中嶋信生	理事	寺田浩詔	監事	木村達也
理事	安田浩	理事	高木幹雄	監事	持田侑宏
理事	山田尚志	理事	中川正雄		
理事	岡本龍明	理事	鈴木滋彦		

事業概況

平成 14 年度はソサイエティ制度がスタートしてから 8 年目にあたり、本部と連携しながらソサイエティ活動の自立化に向けて取組みを強化するとともに、本部においてはこれまでの研究発表に重点を置いた取組みから、研究発表と教育を両輪とした取組みに移行させた。

- (1) 会誌は予定どおりに実施し、魅力ある会誌を作るため会誌編集委員会の下に「会誌改善 WG」を発足させて検討を開始した。また、学会誌会告欄の教官公募を 15 年度から有料化することとした。

大学の新しい教科書シリーズ「電子情報通信レクチャーシリーズ」は順調に進み、14 年 3 月の第 1 号を皮切りに全 63 巻中の 6 巻を発刊した。

- (2) 選奨に関しては「功績賞改革 WG」を発足させて功績賞贈呈者数等を検討し、本会の扱う専門分野が拡大してきたこと等を考慮して功績賞贈呈者数を「3 名以内」から「5 名以内」に規程を改正し、14 年度から適用することとした。

各種賞の選考方法、新たな賞の新設等も継続して検討することとした。

- (3) 会員増強委員会と学生会連絡会が連携して、会員増強の一環として Student Branch 設置の検討を開始した。

- (4) 「高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドライン（第一版）」を作成し、内閣官房高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部及び文部科学省へ報告した。

- (5) JABEE が本格審査の段階に移行することに伴い、それに対応可能な組織体制を整備し移行するとともに、審査員の養成、審査のレベルの向上に努めた。

日本工学会の主導で動き始める CPD (Continuing Professional Development) (生涯教育) への取組みを強化する。

- (6) 「子供の科学教室」の活動では、より定着した活動への移行を図るため会員からの募金活動を開始した。

- (7) 学会ホームページは継続的に改善を実施した。

- ・ ホームページ内容の充実・刷新
- ・ ウイルスチェック機能強化

- (8) グローバル化の一環の足掛かりとして、アジア地域

での活動の活発化に向けてまず限定した拠点に海外地域代表を置く取組みを開始した（当面はタイペイ、北京、バンコク、シンガポール）。3 月の東北大で開催された総合大会会期中に第 1 回の地域代表者会議を開催した。

- (9) 大会の運用形態を従来の紙の論文集ベースから CD-ROM ベースに全面的に移行する。

総合大会を本部事業からソサイエティ事業に移行し、より活発な活動が期待できる体制とする。技術的内容はソサイエティに一任するがソサイエティ間にまたがる企画になるので運用については従来のソサイエティ大会形式をとり大会委員会で取りまとめる。

情報・システムソサイエティはソサイエティ大会を情報処理学会と合同で「情報科学技術フォーラム (FIT)」として東工大で開催した。

- (10) 「著作権規程」及び「本会著作権規程の解説と具体例」を作成し、15 年 4 月から施行する。

- (11) 電気・情報関連 5 学会（本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会）が学会の大同団結に向けて「アンブレラ型機構の在り方タスクフォース」と「国際的情報発信源の可能性タスクフォース」の二つのタスクフォースで検討を行った。5 学会の共通のまとめとして「協議会」を発足させることとなった。

- (12) 英文論文誌のサーキュレート向上、学会の知名度向上に向けて約 100 の機関（途中で見直し、最終的には 39 の機関）に対して電子情報通信学会機関誌の無料配布を実施した。

- (13) ソサイエティ活性化基金を有効活用して、ソサイエティの活性化に向けてソサイエティごとに新たな企画を立て、実施した。

- ・ 英文論文誌の英文クオリティの向上
- ・ 英文論文誌の製作に対するトライアル
- ・ 英文規程類の作成
- ・ 国際会議等の会場において海外会員の勧誘活動
- ・ 論文投稿・管理システムの開発
- ・ 学生海外渡航支援
- ・ バックナンバーの CD-ROM 化

以下に各事業の実施状況を報告する。

(氏名につきましては、敬称を略させていただきます)

I. 本部事業

1. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所
2002 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC 2002)	2002.11.19 ～ 22	839	384	国立京都国際会館

2. 出版に関する事項

2.1 会誌の発行状況

全会員に共通の場で重要なメディアである会誌は、平成 14 年 4 月から 15 年 3 月まで 12 冊、合計 450,600 部（月平均 37,550 部）を発行配布した。

記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ	種 類	件数	ページ
慶 賀	1	1	ソサイエティのページ	6	18
追 悼	2	2	会 報	1	4
奇 書	6	43	私の意見	3	10
回 想	2	8	学生会報告	2	10
講 演	1	6	支部だより	1	1
編集長退任あいさつ	1	3	国際会議	30	4
総合報告	3	26	図書紹介	20	10
5 月特集(フォトリソグラフィネットワークは人類の幸せのために)	13	85	予定目次	6	0
8 月小特集(量子情報科学—新しい情報処理のパラダイム—)	10	51	学会ニュース	3	1
10 月特別小特集(医用生体バイオ工学—マイクロテクノロジーの開花に向けて—)	7	25	国内文献目次	8	8
11 月特集(ナノテクノロジーの光とエレクトロニクスへの応用)	14	83	図書寄贈一覧	42	42
1 月特別小特集(日本が世界に誇れるもの)	8	28	ニュース解説		
3 月小特集(インターネットの歴史と将来展望)	9	51	本会だより		20
解説 A	15	56	編集室		12
解説 B	20	129	役員等口絵		12
講 座	16	89	総会・選奨		57
教養のページ	10	28	フェロー口絵		2
学生のページ	12	35	会誌総目次		10
			学会編集室		10
			計		980
			巻 頭 言	12	12
			目 次	12	36
			会 告		630
			合 計		1,658

* その他：広告（カラー、前付、後付等）366 ページ

2.2 広告賞について

平成 14 年広告賞として下記の 2 点を選定した。

【カラー広告部門】 (財)とっとりコンベンションビューロー
「ふるさとで話そう。」(4 月号)

【一色刷り広告部門】 (株)アール・アンド・ケー
「We're still in the Communication 可能性を開く鍵が、ここにある。」(1, 2 月号)

2.3 単行本

平成 14 年度は新刊 3 点 3,000 部、重版 12 点 6,900 部を発行した。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
電子情報通信産業—データからトレンドを探る—	H14.4.10	192	1,000
わかりやすい待ち行列システム—理論と実践—	H15.3.25	172	1,000
広帯域光ネットワーク技術—フォトリソグラフィネットワーク—	H15.3.25	280	1,000

2.4 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行（全 62 巻）（コロナ社委託出版）

昭和 55 年 8 月以降既刊書目 51 点、平成 14 年度は重版 29 点を発行した。

2.5 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全 63 巻) (コロナ社委託出版)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成 14 年度は新刊 5 点、重版 2 点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
電磁気計測	H14.8.30	182	1,500
画像・メディア工学	H14.10.10	182	1,200
波動解析基礎	H14.12.5	162	1,200
並列分散処理	H15.1.23	148	1,200
情報リテラシーとプレゼンテーション	H15.2.24	216	1,200

3. 規格調査会に関する事項

委員会議を 4 回、専門委員会及び小委員会を 56 回開催した。取り扱った IEC 文書は 426 件で、そのうち 131 件に対して日本の意見を回答した。

専門委員会名	専門委員長名	委員数		開催数	
		専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 規格調査委員会議	高木 幹雄	18	0	4	0
2 電子部品のデータベース	高木 幹雄	0	26	0	5
3 通信用伝送線路	佐伯 省二	11	38	5	3
4 周波数制御・選択デバイス	高木 幹雄	22	29	4	7
5 光ファイバ	羽鳥 光俊	20	91	4	5
6 デザインオートメーション	高木 幹雄	21	51	5	12
7 無線通信用送信装置		17	0	0	0
8 電子通信用語	吉村 久東	24	0	2	0
9 電子通信記号		14	0	0	0
10 安全性評価法特別委員会	鈴木 喜久	10	0	4	0
11 ミリ波検討委員会	長谷川 誠	3	0	0	0
合 計		160	235	28	32
				60	

4. 選奨に関する事項

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞（第 64 回）

伊 賀 健 一（日本学術振興会）
板 倉 文 忠（名 大）
白 川 功（阪 大）
寺 田 浩 詔（高知工大）
戸 田 巖（富士通研）

以上 5 名

4.2 業績賞（第 40 回）

選奨規程第 9 条イ項によるもの

（業績名五十音順）

業 績	貢 献 者 (所 属)
音声認識・理解技術に関する先駆的研究	古井 貞照（東工大）
垂直磁気ハードディスク装置の開発	中村 慶久（東北大） 村岡 裕明（東北大）
立体視の新たな原理の発見に基づく 3D 映像装置の研究開発	大塚 作一（NTT データ） 陶山 史朗（NTT） 高田 英明（NTT）

以上 3 件